

リッダ闘争25周年に寄せて

1997年5月30日 JRA

1. 世界の、日本の、人民、同志、友人のみなさん、

私たちJRAは、1972年のリッダ空港襲撃作戦から25年目の5月30日を迎え、新たな闘いの決意を込めて、様々な条件で闘い続けている人々へ連帯の挨拶を送ります。

人民、同志、友人のみなさん、とりわけ、アラブの友人のみなさん、

25年前のこの日、私たちはリッダ闘争を契機として、JRAとしてアラブの友人達と共に闘いを開始しました。25年前の状況は、世界の正義と不正義がはっきりと目の前に示され、心有る人々は自己犠牲を厭わず正義の闘いに参加しました。アメリカが北爆を拡大しベトナム侵略戦争が激化し、それに反対する闘いが世界中で湧き起っていました。中東に於いても、67年戦争を経てイスラエルの侵略と拡張政策は、激しさを増し、アラブの土地を拡張占領しながら、イスラエルは、アラブの文化までも収奪し続けていました。アメリカ政府は、アジアに於けるベトナムでの侵略の犯罪に加えて、中東では、イスラエルの後ろ盾となって、益々アラブ人民を塗炭の苦しみに落とし込んでいました。無制限の武器と金、虚偽と偽善に満ちたシオニストイスラエルの侵略とテロに立ち向かう、抑圧された人民の言葉は、武装闘争を通じた闘いの正義性を持続しつづける事によってしか世界の人々の目に触れる事は有りませんでした。占領された祖国解放の闘いの新しい活路と、解放勝利の輝きを示す一環として国際遊撃戦が戦争の一形態として登場しました。私たちもまた、世界の正義と平和を求める日本人革命家として、アラブ、パレスチナの正義の闘争と共に、リッダ空港襲撃作戦を闘いました。数万キロ離れたアジアの果てから、正義が圧殺されようとしている事にアラブ人民と同様に怒り、私たちは立ち上がりました。リッダ闘争は、自らの犠牲をいとわず、正義の合法性を武装闘争で指し示し、アラブ人民と日本人民が連帯し闘い抜くことによって、抑圧された人民が、分断された国境を越えて、人間の尊厳を取り戻す一つの価値に於いて分かち難く結びついている姿を指し示しました。それ以降、私たちは、リッダ闘争の切り開いた正義と人間の尊厳と、自己犠牲の精神を私たちの立脚点として、アラブの人々と共に闘い、同時に、日本の進歩と平和を目指す闘いの一端を担いながら25年を闘い抜いてきました。私たちはアラブの同志、友人、人民と共に闘ったこの25年の友情と共に、誇りをもっています。

2. リッダ空港襲撃闘争から、25年目の今日、皮肉な事に、リッダ闘争を闘い抜き、過酷なイスラエルの獄中で闘い、アラブ人民の闘争を通して85年、イスラエルの獄中から生還した同志岡本を初めとする5人の私たちの同志達が、レバノンの獄中で、5月30日のリッダ闘争の記念日を向かえています。

闘いの正義は死滅したのでしょうか？何故こうした事態に至ったのか、私たちは知っています。日本政府が、一部のレバノン当局者を少なくない金で買収し、アラブ人民と連帯した私たちJRAの破壊へと行動を開始したのです。逮捕当日、日本人が共同している姿が確認されているし、押収された情報の一部は翌日東京の警察庁公安本部に送られました。日本政府は、冷戦後の新しい時代に対応すべく、国連常任理事国入りを目指し、アメリカの不動の同盟者として、アジアに於ける支配的関与を拡大し、21世紀に向けた動きを開始しています。それらは国内の構造的再編を伴い、また、国際的分野では、私たちを「始末する」事が、そのプログラムの一環に含まれていました。日本政府の強力な要請に、一部のレバノン当局者達は経済援助と、賄賂の多寡に、アラブの大儀を退けました。レバノン当局が、レバノンの国内事情によって私たちを望まないならば、何時でもそれを私たちに伝達する方法があり、私たちもそれを受ける用意が有ることをレバノン当局自身が知っています。しかし、日本政府の意図は、私たちの「壊滅」にあり、合法的な友人の破壊にあり、岡本を含むJRA同志達の日本への強制送還と監獄へ縛り付ける事であり、突如として2月15日それが実行されました。しかし、決して大儀も正義も死滅したわけでは有りませんでした。アラブ、とりわけレバノン人民のアラブの大儀と正義に対する志が今も変わらない事を2月15日JRA逮捕の事態は、逆に世界の人々に指し示しました。

25年前も現在も変わらないイスラエルの侵略と抑圧に抗し、一方的なイスラエルとアメリカの利益の為の「和平」を望まない、公正と正義を求めるアラブの平和への闘いは今も続いています。こうしたアラブ人民と進歩的勢力の大儀と正義を求める意思は、アラブの大儀を戦い抜いた岡本を初めとする私たちの同志達への熱い友情と支援として結実し、即刻の強制送還を焦る日本政府の意図を頓挫させました。170余人のボランティア弁護士が岡本を初めとする私たちの同志達の正義を支え、今も惜しみない支援を尽くし、裁判を支えています。そして、こうした事態の推移に、心有る日本の人々は、アラブ人民と分かち難く結びついたJRAの歴史と存在を改めて知り、日本政府の「テロリスト」報道の欺瞞を理解し始めています。もちろん、現情勢の力関係から、人民の意志や正義が必ずしも成就するとは言えず、同志達は、不斷に送還の危機に曝されています。しかし、金と恫喝にもたじろがない人民の意志が、即刻の強制送還を阻止し、日一日の送還の遅れはアラブ日本人民の日一日の連帯の勝利を示しています。

リッダ闘争が、70年代の、抑圧された人民の連帯の証で有った様に、今、岡本を初めとする5人のJRA同志達を支えるアラブレバノン人民の行動は、現在の抑圧された人民の連帯の証として、不滅の輝きを示しています。

私たちJRAは、このリッダ闘争のアラブー日本人民連帯の記念すべき5月30日に、アラブ、レバノン人民の同志達への救援と連帯に心から感謝します。そして同時に、21世紀に向けて、これからもまた、あらゆる形のアラブー日本人民連帯を私たちの闘いとして、より広く、より公然と戦い抜くことを誓います。

3. 同志、人民、友人のみなさん、とりわけ世界で闘っている同志のみなさん、世界は、東欧ソ連崩壊、湾岸戦争を経た今日、「強者」による、新たな世界秩序が形成される過渡期として、攻防と激動を伴って現在進行しています。特徴的にはアメリカを始めとする多国籍企業の「自由」の為に、国際機関の制度的押しつけによる各國主権の「合法的」剥奪と制裁の恫喝による従属の強制

が進行しています。アメリカの主張する「市場民主主義」を世界の隅々まで押しつける、新しい時代への転換が画策されています。グローバルの名に於けるこれらの権暴は主権を無視し、益々グローバルに、人々の自由と解放を求める意思を圧殺しようとしています。利潤追求と会社の安全を原理とする多国籍企業の「自由」の保証として、世界銀行、IMF、WTOなどの超国家機関による制度や基準がグローバルに張り巡らされればされるほど、政治的、社会的な強制を伴い、諸国は多国籍企業の「自由」の管理者として人民の生活に敵対しています。人間の「英知」として生み出した「会社」に人間が支配され、それと引き替えに、人間の尊厳は市場に投げ出され、人間が生存の危機に直面する時代へと21世紀が準備されています。環境破壊の張本人が環境整備で儲け、公害の張本人が公害予防で儲けるという皮肉な姿があちこちで真面目に大手を振ってまかり通っています。そればかりか、進歩的国家には、超国家機関による経済的締め付けによる従属を強い、武装解放勢力には、武装放棄を強い、帝国主義本国革命勢力には解体と圧殺を強い、グローバルなアメリカを初めとする西側諸国の強権が、金と制裁をちらつかせて強化されてきました。最もテロ国家であるイスラエルが「中東に於ける唯一の民主主義国家」の位置を得、武器も無い、抑圧された人民の抵抗は「テロ」の名に於いて糾弾されています。腐敗とファッショのフジモリ政権が譲えられ、貧しい抑圧から這い出そうとする正義の勇士が虫けらの様に殺されています。正義が正義性を奪われ、暴虐が「正義」の仮面を被って正当化されています。人間の尊厳を求める闘いは、正義でなくて何でしょう。現在の敵の横暴が「合法」の強権的に押し進められる時代に至った根底には、かつての、私たちの先達の闘いの在り方にも大きく責任があります。人間の自由と解放を求め、人間の尊厳を開花させた社会として「社会主義」が希望を実現しただろうか？無謬の党として、人民の上に君臨しなかっただろうか？党が自己義的に人民に奉仕しただろうか？私たちは今、人民の自由と尊厳を求め血と汗の中からかち取った革命の先達の教訓から学び、間違いを正し、再び迫り来る危機に立ち向かう、時代を切り開く主体としての役割を要請されています。70年代には70年代の闘いが有った様に、21世紀には21世紀にふさわしい闘い方に於いて、グローバルな支配に抗し、人民の理想と意思を集団的力として打ち砕えて、国境を越えた味方の連帯を復権させていかなければなりません。眞のナショナリズムが他の國の人々の痛みを共感し、共通の利益を分かち合う事ができる様に、真に、その地域に住む人々の利益を実現しながら、グローバル支配の根元に立ち向かう共同と連帯を育てようではありませんか。21世紀の味方の側からの世界秩序を割り出していく闘いとして、あらゆる戦線で手を携え、学び合い、助け合う規範を割り出す闘いと共に担おうではありませんか。私たちJRAもまた、微力を尽くして、抑圧された人々がより賢く戦い抜く為に、自らを変革しながら共に進む事を誓います。

4. 人民、同志、友人の皆さん、とりわけ日本人民、同志、友人のみなさん。グローバル経済、社会に呼応すると称して、日本の進路は、転換の過渡期の渦中にあります。日米安保条約の再定義、沖縄基地問題、危機管理、行革と、人民の暮らしと懼みと一見無関係な政治が進行し、気付いてみれば、失業が増大し、不安定雇用状態に置かれ、年金が減額され、平和が脅かされ、暮らしと懼みは、「一見無関係な政治」によって押し進められる一つ一つによって、人々の足下が震わせています。現日本政府は、朝鮮半島や中国の存在を本質的脅威と見なし、アメリカとの永続的な同盟関係維持によって、アジア支配を安定させるために、アメリカの戦略的要求に自ら進んで日本の主権や安定を犠牲にし、アメリカとの関係維持に汲々としています。とりわけ、沖縄人民に犠牲を強いいる米軍基地は、人民の基地縮小撤去の意思に反して、日本の政治がアメリカの利害の実現を最優先事項としている現実を如実に示しています。橋本政権は、国連常任理事国入りを国際関係の最重要課題として、人民の税金をのために世界にばらまき、平和憲法違反の危機管理体系を模索し、日本が益々アジアから孤立する道を歩んでいます。それは国内に於いては、企業の自由の拡大の為の行革によって、生活や環境が破壊され、福祉や弱者への切り捨て政策として着々と進行しています。冷戦後の今日、平和憲法の精神に基づく平和と友好の善隣外交として日本の進路を築く好機に、日本は今、誤った進路へと布石が打たれています。しかし、沖縄の住民が命を賭けて基地撤去を戦い抜いている様に、日本の各地で、住民の意思を実現する政治の転換を求める闘いが深く広く人々の不動の意思として戦い抜かれています。私たちJRAは、日本人民の闘いの一端を担い、グローバルの名に於いて国内外で格差を拡大させる橋本政権の「日本の進路」に反対し、世界の平和と国際関係の民主化、国内の民主主義の徹底を求めて戦い抜きます。

5. 人民、同志、友人のみなさん。

私たちJRAは、合法的な公然とした正義の人民の闘いに呼応しうる闘いを十分担い得ていません。日本政府のテロリスト宣伝の前で、合法的な活動の条件を制約され、私たちの平和と、正義を求める闘いは一貫してねじ曲げられて来ました。私たちもまた、自らの闘いの未熟さに於いて、人々とのつながりを求めきれずに来ました。私達は正義と平和と人間の尊厳を求めて闘ってきたし、これまででも、そしてこれからもテロリストとなることは有りえません。私達はただ、帝国主義本国の変革を目指す主体として、70年代以降、今に至るまで闘い続けている事に於いて日本を始めとする同盟国から「テロリスト」として非難されています。

今、平和と正義を求める世界の人民の闘いが、グローバル支配に抗して不退転に戦い抜かれている中にあって、私たちは多くの事を求められながら、その役割を十分に果たし得ていません。しかし、歴史的に蓄積された同志友人が居り、国内で闘う人々が居り、出会うべき多くの手が差し伸べられてられており、70年代の闘いを越える21世紀の闘いが求められている現在、私たちは微力を尽くしてその闘いを担い抜く用意が有ります。

抑圧された人々と共に感し、人間の尊厳を求める、自己犠牲の精神で戦い抜いたリッダ闘争の戦士達の刻印した人民連帯の歴史的証である一里塚に立ち、私たちJRAは、自由と解放の実現に向けて、再び、世界の、日本の闘いに呼応して戦い抜きます。そして、最後に獄中で戦い抜いている愛する同志のみなさん、苦労を厭わず、いつも燃える様な人民への思いを基礎に同志愛を大切にして戦い抜いて来た同志達、敵への被逮捕を許した敗北を真正面から受けとめ、しっかり再生を目指します。「私達は間違わない事に価値を置かず、間違っても必ず正し、正せる勇気を持った組織を作ろう」と誓い、これまでの無謬の党観を否定したところから一つ一つみんなの力で組織の力を築いてきました。これまででもそうであった様にこれからも実践の中から自己を批判する力を養い、党を革命する力を養い、敗北を勝利の土台へと転化すべく戦い抜きます。愛する獄中の同志達の分まで最善を尽くし、リッダの戦士達の自己犠牲の志を持って戦い抜きます。再会まで共に。

リッダ闘争の築いた人民連帯万歳！